

東岳周辺におけるシレトコスミレ調査 2010 年調査結果概要

(株)北開水工コンサルタント 田崎 冬記, 佐々木優一, 田村徳行

シレトコスミレ *viola kitamiana* Nakai は高山の風衝砂礫地に生育するスミレ科の多年草草本で知床半島および南千島に分布する。知床半島においても、現在の確実な分布は、硫黄山周辺(硫黄山, 知円別岳, 東岳)および遠音別岳に限られるとされる。『大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつある。大部分の個体群がその繁殖能力を上回る採取圧にさらされている。』とのことから、北海道 RDB2001 では絶滅危急種(Vu)に指定され、保全保護の対象とされている。

これまで、遠音別岳および硫黄山において分布や現存量の調査が行われ、その中で、硫黄山における同種への食害が確認された。本調査では、東岳周辺におけるシレトコスミレの食害状況を把握するとともに、センサーカメラやフィールドサイン調査によって食害生物を推定した結果を報告する。

1) 方法

センサーカメラによる生息動物の確認

2010 年 8 月 2 日、東岳南西斜面上のシレトコスミレ群生地約 500m² を囲むようにフィルムセンサーカメラ 4 台とデジタルセンサーカメラ 1 台を設置した。これらのセンサーカメラは 9 月 2 日までの 1 ヶ月間設置し、設置約 2 週間後にはフィルム、バッテリーおよびデータカードの交換を行った。なお、センサーカメラは鉄筋および木杭で地上約 50 cm の高さに固定した。

フィールドサイン調査およびシレトコスミレの食害状況調査

知円別岳からセンサーカメラを設置した東岳南西斜面までの尾根上付近を対象に、フィールドサイン調査およびシレトコスミレの食害状況を記録した。調査は 2010 年 8 月 2 日、8 月 17 日および 9 月 2 日の計 3 回実施した。なお、各フィールドサインは重複記録を防ぐため、2 回目以降の調査では、前回確認された古いものはカウントしていない。

2) 結果および考察

センサーカメラによる動物の確認状況

センサーカメラによる動物の確認状況を表 1 に示した。センサーカメラでは、エゾユキウサギ、ヤチネズミ属の一種の計 2 種が確認された。しかし、いずれの確認でもシレトコスミレの採食状況は撮影されなかった。

表 1 センサーカメラによる確認状況

科名	種名	確認回数
ウサギ科	エゾユキウサギ	1
ネズミ科	ヤチネズミ属の一種	1

フィールドサインおよびシレトコスミレ食害の状況

フィールドサインおよびシレトコスミレ食害の状況を図 1 に示した。

フィールドサインは(図 1 左図)、1 回目では、足跡、フンともにエゾシカが多かった。しかし、2 回目以降、エゾシカのフィールドサインの確認数は大きく減少した。一方、エゾユキウサギは、確認数は少ないもののフンは毎回確認された。エゾユキウサギの足跡は確認できなかったが、これは、体重が軽く、足跡が気づきづらいことを反映した結果と考えられた。

シレトコスミレの食害状況では(図 1 右図)、エゾシカあるいはエゾユキウサギと明確に判別出来る食痕は確認

できなかった。確認された食痕はいずれも古く、何によって食害されたか現状では判別出来ていない。その他に分類された食害は、シレットコスミレの株内の大部分の葉身が一部食害されており、これは調査回が後になる程多く確認された。現状では、その他に分類された食痕は昆虫類によるものと推定される。

本調査では、シレットコスミレの食害動物については、明らかに出来なかったが、昆虫によると推定される食害が小さくない可能性も示唆された。既往の報告、本フィールドサイン調査の結果から、エゾシカによる食害は主に春季・初夏に起こると考えられる。一方、エゾキウサギ、ヤチネズミ属の一種については、調査範囲の稜線上に複数の穴を確認していること、ヤチネズミ属の一種はあまり移動能力がないと考えられることから、シレットコスミレ群生地付近をその生息環境していることが考えられる。しかし、今回の調査では、新しい食痕が確認されなかったことから、シレットコスミレを選択的に採食している可能性は低いと考えられる。

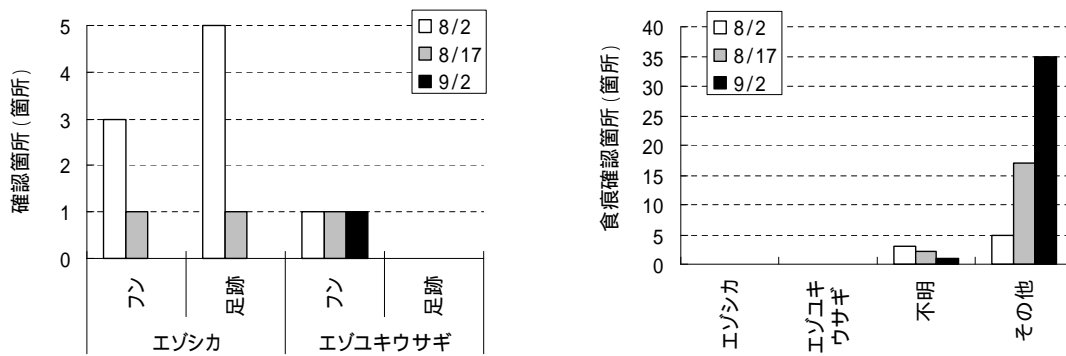


図1 フィールドサイン(左図)およびシレットコスミレ食害(右図)の状況